

平成 31 年 4 月 6 日現在

機関番号：37119

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2016～2018

課題番号：16K02991

研究課題名(和文) 小学校高学年における英語の読み書き指導に関する協働的アクション・リサーチ

研究課題名(英文) A Collaborative Action Research on Methods to Teach English Reading and Writing at the 5th and 6th Grade Level in Elementary School

研究代表者

横溝 紳一郎 (Yokomizo, Shinichiro)

西南女学院大学・人文学部・教授

研究者番号：60220563

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,200,000円

研究成果の概要(和文)：「中1入門期の『読み』『書き』の指導法が、小学校高学年においてどのような効果を生み出すのか」を明らかにする研究であったが、開発教材の対象を、小学校高学年から中学校のスローラーナーへと変更した。『Letters and Sounds - 英語の文字と音を学ぼう!』(10～15分程度で、モジュール形式の30回分の教材)を作成し、その効果を分析したところ、以下のことが明らかになった。

小学校高学年用の文字指導教材は、中学生スローラーナーに対して「自信の向上」と「学習意欲の向上」という効果を生む。(小学校高学年生と中学校スローラーナー間の)知的レベルの差への配慮は、それほど必要ではない。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究は、開発する教材の対象を、小学校高学年から中学校のスローラーナーへと変更した。その理由は、(1)新学習指導要領に対応する形で、小学校外国語教育に関する新教材が次々と開発されている、(2)今後の小学校外国語活動の内容の高度化に伴い、中学入学時点で英語に対する苦手感をすでに抱えている生徒の増加が予想される、(3)中学校教員からの強い希望があった、等である。この状況下で開発された教材『Letters and Sounds - 英語の文字と音を学ぼう!』が、「自信と学習意欲の向上」へとつながったことは、今後の教材作成の方向性に対して、大きな示唆を与えらるものと考えられる。

研究成果の概要(英文)：This particular study originally attempted to clarify how effective the methods to teach reading and writing to 1st year junior high school students are to 5th and 6th grade students in elementary school. The target in developing teaching materials was changed to slow-learners in junior high school, and as a result, Letters and Sounds: Eigo no Moji to Oto o Musuboo was developed.

Its use on slow learners in junior high school improved students' self-confidence and created motivation. Consideration on their cognitive level is not particularly necessary.

研究分野：教師教育、外国語教育

キーワード：文字指導 アクション・リサーチ 連携

様式 C-19、F-19-1、Z-19、CK-19（共通）

1. 研究開始当初の背景

研究代表者は、「どのようにすれば小中連携を成功に導くことができるのか」というテーマに関して、平成 22～24 年度科学研究費補助金基盤研究 (C) 「小中連携の英語教育における教員間の『協働性』に関する総合的研究(課題番号 22520568)」及び、平成 25～27 年度科学研究費補助金基盤研究 (C) 「協働的アクション・リサーチによる、中 1 入門期の英語教育に関する総合的研究(課題番号 25370719)」における探求の中で、「小中連携の成功への鍵は、中学校 1 年生のいわゆる入門期の英語授業にある」という結論に至り、中 1 入門期の授業のデザイン・運営に関して、数多くの教育現場から詳細なデータ、特に「読み」「書き」の指導法や教材に関して数多くのデータをを得ることができた。

2. 研究の目的

上掲の背景の下、本研究は以下のテーマを設定するに至った。

中学校教員によって開発された中 1 入門期の「読み」「書き」の指導法が、小学校高学年においてどのような効果を生み出すのかを明らかにすること。

3. 研究の方法

研究手法としては、アクション・リサーチ(「自分の教室内外の問題及び関心事について、教師自身が理解を深め実践を改善する目的で実施される、システムティックな調査研究(横溝 2000)」)、特に協働的アクション・リサーチ (Collaborative Action Research, Burns 1999)を採用することとした。

4. 研究成果

3 年間の研究プロセスを、時系列に沿って以下に記す。

平成 28 年度

- (1) 4月～12月 中1入門期の読み・書きの指導についての文献調査、並びにF県F市の中学校教員の文字指導実践に関する情報収集
- (2) 10月9日 小学校外国語活動の専門家による研修（第1回目）
- (3) 1月21日 小学校外国語活動の専門家からの情報収集（東京にて）
- (4) 2月11日 小中連携の専門家による研修（第2回目）
- (5) 2月12日 小中連携の専門家による研修（第3回目）
- (6) 2月19～22日 福島県いわき市の中学校教員2名の文字指導実践に関する情報収集
- (7) 2月上旬～3月下旬 29年度の協働的アクション・リサーチ参加者の決定



次年度の協働的アクション・リサーチ実施に向けて、『アルファベットと友だちになろう』という、各 10～15 分程度の 71 回分の活動をモジュール形式で紹介する教材の作成に着手した。(平成 29 年 4 月下旬に完成)。



平成 29 年度

- (1) 4 月～12 月 中 1 入門期の読み・書きの指導についての文献調査，並びに F 県 F 市の中学校教員の文字指導実践に関する情報収集
- (2) 4 月 『アルファベットと友だちになろう』が完成
- (3) 5 月～11 月 同教材を用いた文字指導を F 県 F 市の小学校教員・中学校教員に依頼
- (4) 11 月 同教材を用いた文字指導の効果に関して，日本教育アクション・リサーチ・ネットワーク第 6 回千葉大会で共同発表
- (5) 1 月 20 日 小学校外国語活動の専門家からの情報収集（東京にて）
- (6) 2 月 11～12 日 英語教育学の専門家による研修（第 1 回目）
- (7) 2 月 24 日 英語教育学の専門家による研修（第 2 回目）
- (8) 2 月上旬～3 月下旬 30 年度の協働的アクション・リサーチ参加者の決定
- (9) 3 月下旬 『Letters and Sounds－英語の文字と音を学ぼう！』が完成



5 月～11 月の文字指導実施期間中、『アルファベットと友だちになろう』の使用に対するフィードバックは，小学校教員に比べ中学校教員の方がはるかに大きかった。特に，「同教

材を、自分が担当しているスローラーナーに是非使わせてもらいたい」との強い要望が数多く寄せられた。このことに基づき、本研究の研究対象を、中学生スローラーナーに焦点化することとした。

同教材を使用した中学校教員からのフィードバックは、以下のようにまとめられる。

1. 小学校高学年用の文字指導教材は、中学生スローラーナーに対して以下の効果を生むようである。
 - a. 自信の向上
 - b. 学習意欲の向上
2. 以下の点が、今後の課題である。
 - a. 新学習指導要領のもと、小学校高学年で、どこまでの文字指導が求められるのかを、再度明確にする必要がある。
 - b. 新学習指導要領のもと、「小中それぞれで行っていくことが、しっかりとつながりのあるものになるのか」を確認する必要がある。
 - c. 小学生向けの教材が、中学生の知的レベルにどこまで対応できるのかを、明確にする必要がある。

3月に完成した『Letters and Sounds－英語の文字と音を学ぼう！』は、中学校のスローラーナーを対象とした、各10～15分程度の活動をモジュール形式で30回分紹介した教材である。



本研究で開発する教材の対象を、小学校高学年から中学校のスローラーナーへと変更した理由は以下の通りである。

- (1) 新学習指導要領に対応する形で、小学校外国語教育に関する新教材が次々と開発されている。
- (2) 今後の小学校外国語活動の内容の高度化に伴い、中学入学時点で英語に対する苦手感をすでに抱えている生徒の増加が予想される。
- (3) 『アルファベットと友だちになろう』を使用しスローラーナーを実際に指導した複数の中学校教員から、高い評価を得ることができた。

平成30年度

- (1) 4月～5月『Letters and Sounds－英語の文字と音を学ぼう！』をF県F市の中学校教員

に配布

- (2) 4月～7月 中学校教員が同教材を用いた文字指導をスローラーナーに対して行い、ビデオ録画および参与観察によるデータ収集
- (2) 8月 中学校教員間の話し合いと各教員へのインタビュー調査
- (4) 9月 同教材を用いた文字指導の効果に関して、日本教育アクション・リサーチ・ネットワーク第8回横浜大会で共同発表
- (5) 10月～1月 30年度の研究のまとめ
- (6) 2月16～17日 英語教育学の専門家による研修
- (7) 3年間の研究のまとめ



30年度の研究の結果、以下のことが明らかになった。

1. 小学校高学年用の文字指導教材は、中学生スローラーナーに対して以下の効果を生むようである。
 - a. 自信の向上
 - b. 学習意欲の向上
2. (小学校高学年生と中学校スローラーナー間の) 知的レベルの差への配慮は、それほど必要ではない。

研究成果と今後の展望

今後の小学校外国語活動の内容の高度化に伴い、中学入学時点で英語に対する苦手感をすでに抱えている生徒の増加が予想される中、中学生スローラーナーを対象とした教材の開発の必要性は今後高まっていくと推察される。本研究で開発した『Letters and Sounds－英語の文字と音を学ぼう！』は、そのニーズを満たす教材例として機能し得ると考える。

また、本研究の『アルファベットと友だちになろう』及び『Letters and Sounds－英語の文字と音を学ぼう！』は、文字指導の教材開発が求められている「外国人に対する日本語教育」、特に「年少者外国人に対する日本語教育」に様々な示唆を与えることができると考えられる。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕（計 1 件）

- (1) 横溝紳一郎「教師の成長と学び合い」『東アフリカ日本語教育』第 2 巻, 157-176. (2016)

〔学会発表〕（計 6 件）

- (1) 横溝紳一郎「教材から教案を考える」九州日本語教育連絡協議会夏季研修会（2016 年 8 月 29 日, 博多バスターミナル大ホール）
- (2) 横溝紳一郎・河村扶美・松下周・松田由紀子・高橋志成・山崎晴菜「小学生向けの文字指導教材の可能性と課題～中学生スローラーナーのリメディアル教材として～」日本教育アクション・リサーチ・ネットワーク第 7 回大会（2017 年 11 月 4 日, 神田外語大学）
- (3) 横溝紳一郎「日本語教師のためのアクション・リサーチの実践と課題」中国日語教学研究学会全国大会（2017 年 9 月 29 日, 西安外国語大学）
- (4) 横溝紳一郎・河村扶美・松田由紀子・高橋志成・竹下幸代・原堅吾「中学校スローラーナー用のリメディアル教材の開発～文字と音の結びつきに焦点を当てて～」日本教育アクション・リサーチ・ネットワーク第 8 回全国大会（2018 年 9 月 23 日, 神奈川大学）
- (5) 横溝紳一郎「授業改善の視点と工夫」第 4 回南米スペイン日本語教育連絡会議（2018 年 9 月 16 日, リマ市ペルー日系人協会日秘文化会館）
- (6) 横溝紳一郎「授業改善の視点と工夫」中東欧日本語教育研修会 2019（2019 年 2 月 23 日, NOVOTEL HOTEL ハンガリー ブダペスト）

〔図書〕（計 1 件）

- (1) 横溝紳一郎・山田智久『日本語教師のためのアクティブ・ラーニング』くろしお出版（2019 年 5 月刊行予定）

〔産業財産権〕

○出願状況（計 0 件）

○取得状況（計 0 件）

〔その他〕

ホームページ等：なし

6. 研究組織

(1) 研究分担者：なし

(2) 研究協力者：なし

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。